

児童ら炭焼き体験

亀山・白川小 カシと竹、来月販売

【亀山】亀山市白木町の市立白川小学校(三谷武治校長)の五、六年生計十五人は十七日、同校運動場北側の「炭焼き窯」から、焼き上がった炭を取り出した。

昔の生活を知る総合学習の一環。同校の炭焼き窯は、平成十四年度に地元住民らで設置。その後、窯の

一部に穴が開き放置していたが、三年前に同校の財産として同校学校運営協議会と白川地区まちづくり協議会の協力で修復した。

この日は、今月四日に長さ約八十センチのカシの木約二百五十本を窯に入れ、七日から二日間火入れした炭を、大人一人が通れるほど

の小さな入口から同協議会の浅野重信顧問(八七)が窯の中に入り、焼き上がった炭を外で待つ児童らに手渡した。

この後、空になった窯に長さ約八十センチのモウソウ竹約二百五十本を入れ、火入れして竹炭も作り、カシの炭と竹炭を一箱(五キロ)に詰め、

来年一月から同町内のJA鈴鹿白川出張所と白川郵便局で販売する。商品名は六年生十人が考えるという。

三谷校長は「地域の人の協力あっての炭焼きは、児童らにとって貴重な体験です。よい炭ができた」と見守っていた。

(岩間匠)



炭焼き窯から炭を取り出す児童＝亀山市白木町の市立白川小学校で

【伊勢新聞、12月18日(金)朝刊に掲載！】

昨日、12月17日(木)の白川小学校炭焼き窯にて炭開きの様子が18日伊勢新聞朝刊に掲載されました。